

宮本武蔵被告人質問

【弁護人被告人質問】

裁判官：それでは被告人質問を始めます。被告人は証言席に座ってください。弁護人からどうぞ。

【被害者を襲った状況】

弁護人：あなたは、小次郎さんに殴りかかった時のことを覚えていますか。

武 蔵：頭に血が上っていたのですから・・・

弁護人：頭に血が上ったといっても、殺す気がなかったことくらいは覚えているでしょう？

検察官：異議あり！誘導^{ゆうどう}です。

裁判官：弁護人の意見は？

弁護人：記憶喚起^{かんき}のためで誘導には当たりません。

裁判官：異議を認めます。質問を変えてください。

弁護人：それではね、あなたが小次郎さんを襲った理由は何だったんですか。

武 蔵：徹子です。

弁護人：徹子というと？

武 蔵：小次郎が徹子の前でかっこつけていたので、ぶざまな格好にしてやろうと思っただけなんです。

弁護人：それでは、あなたと徹子さんとの関係を聞きますね。あなたは徹子とどういう関係だったのですか。

武 蔵：元カレです。世界でたった一つの存在です。

弁護人：どれぐらいつきあっていたのかな。

武 蔵：高校生の時につきあい始めて、最近までつきあってました。

弁護人：最近というと？

武 蔵：3月までです。急に別れたっていわれて。いろいろ話し合ったんですけど、徹子の幸せを考えて、サムライらしく別れることにしました。

弁護人：別れた後はどうしてたの？

武 蔵：徹子を忘れるために^{いっしんふらん}一心不乱に木刀を振ってました。

弁護人：では、あなたが^{がんにゅうじま}巖流島で小次郎さんを見つけたときのことを伺います。

あなたは、^{がんにゅうじま}巖流島の砂浜で小次郎さんを見つけましたね？

武 蔵：はい。

弁護人：そのとき、小次郎さんはどんな様子でしたか？

武 蔵：ピンクのポロシャツを着て、徹子といちゃいちゃして歩いていました。

弁護人：それであなたはどうしたのですか？

武 蔵：徹子が小次郎に乗り換えたのがわかって、頭の中が真っ白になりました。

弁護人：それから？

武 蔵：ちょっぴり涙が出てきました。

弁護人：それから？

武 蔵：最初のデートを思い出して、一緒にアイスを食べたな、とか、剣道の試合で応援してもらったなとか、いろいろ思い出して。

弁護人：それで小次郎さんに殴りかかったんですね。

武 蔵：はい。

弁護人：小次郎さんはあなたと離れていたんですね？

武 蔵：はい。だから、走って小次郎のところまで行って、叫びながら小次郎に木刀を振り下ろしました。

弁護人：どうやって？

武 蔵：木刀をこうやって。すっと。（頭上に振りかぶるふりをする）

弁護人：よくわからないな。裁判長、被告人に木刀を持たせてよろしいですか。

裁判長：棄却します。法廷の安全を考えてください。

弁護人：失礼しました。そうすると、あなたは、木刀を頭上に振りかぶって、振り下ろしたんだね。

武 蔵：はい。

弁護人：そして最初に殴りかかったとき、小次郎さんは手でよけた。

武蔵：はい。なんか徹子の前で、木刀を手で避けてかっこつけようとしてたんです。失敗してましたけど。でもなんとなくかっこよかったです。

弁護人：手でよけなかったらどこに当たったんですか？

武蔵：肩の辺りだと思います。袈裟斬りの感じで振り下ろしたので。

弁護人：袈裟斬りというのと、どこを狙うものなのですか。

武蔵：和服の襟に沿って斜めに振り下ろす感じなので、肩に斜めに当てる感じに狙います。刀だったら、相手の右肩から入って左の脇腹に抜けて人間は真っ二つになります。木刀だから肩で止まりますけど。

弁護人：このときあなたは小次郎さんをどうしようと思っていたのですか？

武蔵：一発たたいてこらしめてやろうと思ってました。

弁護人：一発たたくというのはどれくらいの力加減のつもりだったのですか？

武蔵：肩だったんで、鎖骨が折れちゃうかな、って位のつもりです。

弁護人：殴ったら死ぬかも知れないと思いませんか？

武蔵：そう思ってたらずりません。徹子が悲しみますから。そもそも私は剣道 3 段なので、手加減できます。

弁護人：小次郎さんが頭にケガをしたのはなぜですか。

武蔵：小次郎が手で避けながら左に動いたからです。

弁護人：あなたから見て左に動いたということね。

武蔵：そうです。

【被害者を追いかけた状況】

弁護人：そのあと、小次郎さんは逃げましたね。それであなたは追いかけた。

武蔵：はい。謝ろうと思い追いかけました。

弁護人：どうして謝ることにしたの？

武蔵：ふと我に返ったんです。一発叩いただけなのに、小次郎は血を流して倒れていたし、徹子が涙目になっているし、なんか小次郎に悪いなって気がし

てきて。

弁護人：あなたは小次郎さんを追いかけるとき声をかけましたか？

武 蔵：いえ。小次郎は逃げ足が速くて見失いそうだったので必死に走ってて声をかけるどころではありませんでした。

【漁船での状況】

弁護人：それで、漁船でようやく小次郎さんに追いついたわけですね？

武 蔵：はい。

弁護人：それで、謝るために抱きつこうとした。

検察官：異議あり！誘導^{ゆうどう}です。

裁判官：弁護人の意見は？

弁護人：裁判官、この質問は、記憶喚起^{きおくかんき}のための誘導^{ゆうどう}ですから許されると考えます。

裁判官：異議を認めます。弁護人、質問を変えてください。

弁護人：では、あなたは小次郎さんに追いついたあと何をしましたか。

武 蔵：抱きついて謝ろうとしました。

弁護人：なぜ抱きつこうとしたのですか。

武 蔵：部活の時に、よく抱きついて謝っていました。

弁護人：あなたは抱きつこうとしたとき何か言いましたか。

武 蔵：話せばわかると言いました。

弁護人：それはどういう意味だったのですか。

武 蔵：小次郎があまりにおびえた様子だったので、襲うつもりはない、謝ろうとしているだけだと、話せばわかるんだ、という意味です。

弁護人：それから？

武 蔵：駆け寄ったところで、船が揺れたんで、バランスを崩して海に落ちてしまいました。

【小次郎への謝罪】

弁護人：今は小次郎さんに対してどう思っているのかな。

武 蔵：あのときは、彼女を奪ってかっこつけてる小次郎がむかついたんでついやってしまいました。けど、何も木刀で殴ることはなかったんじゃないかと反省しています。骨折までさせてしまったし。今は心から申し訳ないと思っています。

弁護士：以上で終わります。

【検察官被告人質問】

裁判官：それでは検察官どうぞ

【被害者との関係】

検察官：あなたは、被害者の佐々木小次郎さんとはどういう関係なのですか。

武 蔵：^{ライバル}恋敵です。

検察官：そういうことじゃなくて、どこで知り合ったの？

武 蔵：高校時代の友達です。でも、卒業以来ほとんど会っていません。

検察官：小次郎さんと会っていないのはなぜですか。

武 蔵：T大学が東京にあるので遠かったというのがありますが、漁師になった私にひきかえ、小次郎は偏差値の高いT大学に入学したのでムカついていたというのがあります。

【被害者を襲った状況】

検察官：あなたが小次郎さんに気づいたのはあなたとの距離がどれくらいになってからなの？

武 蔵：そうですね。あそこあたりかな。（後ろを指さす）

検察官：あそこというと、^{ぼうちようせき}傍聴席の最後列中央あたりのことだね。そうすると距離にすれば 10 メートルくらい。そこで、小次郎さんが元彼女を連れていくことに気づいたんだね。

武 蔵：はい。

検察官：それから？

武 蔵：気づいたら木刀で小次郎を殴ってしまっていました。

検察官：小次郎さんのところまで走って行って殴ったんだね。

武 蔵：はい。

検察官：あなたは小次郎さんのどこを狙ったの？

武 蔵：さっきもいいましたが、袈裟斬りといって、肩あたりというんですかね。

検察官：袈裟斬りといいますが、本当は、小次郎さんの頭を狙って振り下ろしたんじゃないんですか。

弁護人：異議あり！誤導かつ重複です。

裁判官：検察官の意見は？

検察官：誤導には当たらないと考えます。

裁判官：異議を認めます。検察官、質問を変えてください。

検察官：袈裟斬りというと、どこを狙うのかな。

武 蔵：何度も言いますが、和服の襟えりに沿って斬るような感じです。

検察官：じゃ、頭から首にかけてを狙ったことになるのかな。

武 蔵：いやだから袈裟斬りです。

検察官：あなたは殴るときにかけ声をかけましたか？

武 蔵：はい。チェスト～といいました。

検察官：なぜ英語で胸を指す「チェスト」というのですか？

武 蔵：薩摩藩士がかけ声に使っていたというのを聞いたことがありますが、よくわかりません。

検察官：それは示現流しげんりゅうのかけ声ですね。それは一撃で必ず殺すという流派だったと思いますが。

武 蔵：知りません。というか、詳しく知ってるくせに、胸の英語がチェストだとかいうのはひどいと思います。

【被害者を追いかけた状況】

検察官：小次郎さんはその後逃げたね。そしてあなたは追いかけた。

武 蔵：はい。

検察官：それはなぜですか。

武 蔵：小次郎に謝るためです。

検察官：本当ですか。あなたはとどめを刺すために小次郎さんを追いかけたのではないですか。

武 蔵：違います。それは武士道に反します。

検察官：じゃあ何で木刀を持ったまま追いかけたんですか！

武 蔵：武士たる者いかなる状況でも刀を手放してはならないからです。

【漁船での状況】

検察官：あなたは小次郎さんを漁船関夕三郎まで追い詰めましたね。

武 蔵：追い詰めたというか、追いついただけですけど。

検察官：そこであなたは、小次郎さんにさらに殴りかかった。

武 蔵：いや、謝ろうとしたんです。

検察官：見てる人がいるんですよ。どうしてそんな嘘をつくんですか。

弁護人：異議あり！^{いかく}威嚇的な質問です。

裁判官：検察官の意見は？

検察官：^{いかく}威嚇的な質問には当たらないと考えますが、質問を変えます。あなたは漁船関夕三郎の上で、小次郎さんに近づいた。

武 蔵：はい。

検察官：その後どうしたんですか。

武 蔵：「話せばわかる」といって抱きつこうとしたら、小次郎がよけたんで、僕はそのまま海に落ちてしまいました。

検察官：あなたは謝るときに抱きつくんですか？

武 蔵：はい。韓国ドラマでもよく見ますけど。

検察官：私には、あなたが船の上で何をしたいのか全然わかりません。以上で質問を終わります。

【補充質問：巖流島に向かった経緯】

裁判官：あなたは、事件当日、どうして^{がなりゆうじま}巖流島にいたのですか。

武 蔵：木刀の素振りをするためです。砂浜でやると霧囲気が出るんです。

裁判官：^{がなりゆうじま}巖流島での素振りはどれくらいするのですか。

武 蔵：週1回くらいです。

裁判官：素振りは時間にしてどれくらいしたのですか。

武 蔵：1時間くらいです。

裁判官：ところであなたの身長と体重はどのくらいですか。

武 蔵：身長は180センチ、体重は70キロでしたが、今はやつれて65キロくらいだと思えます。

裁判官：ではこれで被告人質問を終わります。被告人は元の席に戻ってください。

裁判官：それでは、^{きゆうてい}休廷します。検察官、^{ろんこく}論告、^{べんろん}弁論を30分で考えてください」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・30分経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・

裁判官：再開します。検察官、^{ろんこく}論告を述べてください。

検察官：（論告①を発表）

裁判官：^{べんろん}弁論人、^{べんろん}弁論をしてください。

弁論人：（最終弁論①を発表）

裁判官：それでは、^{きゆうてい}休廷します。検察官、^{べんろん}弁論人は、互いの意見をふまえて、もう一度、^{ろんこく}論告、^{べんろん}弁論を30分で考えてください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・30分経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・

裁判官：再開します。検察官、^{ろんこく}論告を述べてください。

検察官：（論告②を発表）

裁判官：^{べんろん}弁論人、^{べんろん}弁論をしてください。

弁論人：（最終弁論②を発表）

裁判官：被告人、最後に言っておきたいことはありますか。

武 蔵：「はい。～～～」

裁判官：それでは、裁判所が評議ひようぎいたしますので、20分間休廷します。

・・・・・・・・・・・・・・・・20分経過・・・・・・・・・・・・・・・・

裁判官：再開します。それでは、判決を言い渡します。（判決を発表）